

本校の多忙化改善に向けた計画

このところ、学校現場が抱える広範で膨大な職務や諸課題により、教員の多忙化が注目されるようになってきました。そのため、教員が子どもと直接関わる時間が大幅に少なくなってきました。このような現状を改善すべく、教育委員会の指導の下、各校で設定した「多忙化改善計画」に基づき、わずかずつでも教員が時間的にも精神的にもゆとりをもって子どもと向き合えるようにしていきたいと考えております。子ども一人一人と接する機会が増すことにより、教員としての本来の責務を果たし、教育の質を高めることに繋がるものと確信しております。つきましては、保護者の皆様にもご理解とご協力をお願いいたします。

項 目	本校の現状と課題	①H31年度に実施する内容 ②R2年度に向けて検討する内容
会議等の効率化	これまで、職員会議資料だけではなく、校内研究会等においても、できるだけPDFの資料を作成し、PCによる閲覧を行い、資料収集や印刷等の効率化を図ってきた。	①会議の開始時間の厳守。検討事項と確認事項を明確にし、効率的な時間配分をする。提案内容の簡潔化。朝礼の確認事項は簡潔に提案し、その他の連絡・動静等については、行事日程ホワイトボード及び週案一覧で確認する。職員会議、校内研究会以外にも効率化できる会議・研究会についての運営方法についてさらに検討していく。 ②協議以外の連絡等について、グループセッションの掲示板を活用することで回数の縮減や時間の短縮を図る。
学校行事の負担軽減	異学年交流行事の見直しや統合について検討する必要がある。	①行事直後に反省と来年度に向けての改善点を確認し、より効率化を目指す。 ②児童会活動を含め、年間行事予定全体の見直しや行事の統合等の検討を行う。
業務の効率化	大規模校であるため、一人当たりにかかる業務負担が大きくなってしまふ。業務時間外勤務も減らない現状がある。	①各分掌の業務データ及び来年度の改善策を盛り込んだ業務引継ぎ書の作成をする。教材及び分掌業務の電子データの共有化、伝達経路の明確化を図る。 ②ICTの活用による情報の共有化、事務処理の効率化を図る。校外からの各種応募、各種調査の精選と効率化を図る。
地域人材の活用	地域人材の活用が十分ではなく、リストが十分に整備されていない。	①教育課程のどの場面でどのような人材が必要なのかを洗い出し、玉諸地区の良さを生かした地域と一体になった教育活動の充実を図る。 ②地域人材の発掘と確保、及びリストの整備について検討する。
本校独自の取り組み①	改善されつつあるが、職員の退勤時間が遅い傾向にある。	①1ヵ月に数回、各学年で定時退勤日を設定し、設定日は17:00を目指して退勤する。管理職も率先して退勤を促す。 ②2年間の取り組みをもとに、成果と課題を明確にし、R2年度以降の取り組みに生かす。
本校独自の取り組み②	個人差はあるが、年次有給休暇の取得率が低い傾向にある。	①1ヵ月に最低1日(延べ)の年次有給休暇の取得を、管理職も含め目指す。 ②全職員、年間、最低17日以上(延べ)の年次有給休暇の完全取得を目指す。